県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの農業普及現場

５月号

普及活動標語

思いを形に,あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.207　2024.5

紹介内容（４/１～４/30）

１．みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

①　先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
○　栗　原農改：栗原農業士会の令和６年度通常総会及び研修会が開催されました
○　石　巻農改：優良大豆種子の生産性向上に向けて播種前研修会を開催しました
○　石　巻農改：麦類現地検討会が開催されました
○　大　崎農改：農地整備事業を契機とした地域営農体制の検討が進んでいます

②　新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
○　気仙沼農改：令和６年度気仙沼地区４Ｈクラブ連絡協議会通常総会が開催されました

③　先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
○　気仙沼農改：環境制御技術を活用したいちご増収研修会を開催しました
○　仙　台農改：黒川地域で水稲乾田直播栽培の播種作業が始まりました！

④　園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
○　亘　理農改：「仙台せり」が、農林水産省の定める地理的表示（ＧＩ）保護制度に登録されました
○　栗　原農改：栗原市金成津久毛地区で加工用ばれいしょの栽培が始まりました
○　大河原農改：母の日に向けたポットカーネーションの現地検討会が行われました
○　栗　原農改：スナックえんどう部会通常総会及び現地検討会が開催されました
○　大河原農改：村田町でそらまめの栽培講習会を開催しました！
○　亘　理農改：亘理・山元果樹産地協議会通常総会が開催されました
○　登　米農改：ＪＡみやぎ登米なす部会の現地検討会が開催されました
○　登　米農改：今年も加工用ばれいしょの栽培が始まりました
○　石　巻農改：河北ミニトマト部会現地検討会が開催されました！
○　仙　台農改：利府梨の花粉準備が始まりました！

⑤　収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
○　登　米農改：小麦赤かび病防除打合会議が開催されました
○　美　里農改：令和６年産の大豆の生産に向けて、栽培講習会が開催されました

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu

２．多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

①　地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
○　大河原農改：かきのジョイント栽培実証ほを設置しました

②　環境に配慮した持続可能な農業生産の取組支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
○　仙　台農改：ＪＡ新みやぎあさひなほうれんそう部会大郷支部研修会が開催されました

１．人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○栗原農業士会の令和６年度通常総会及び研修会が開催されました

令和6年4月19日
栗原農業改良普及センター

令和６年４月 12 日に、栗原市志波姫のエポカ 21 を会場として、令和６年度栗原農業士会通常総会及び研修会が開催されました。

通常総会では、前年度の事業内容及び新年度の事業計画等が議題として提案され、いずれも承認されました。

研修会では、当普及センター職員を講師として、令和６年度の普及指導計画の概要について説明するとともに、地域の農業振興に向けて、農業士の方々とともに活動を進めていくことを確認しました。

○優良大豆種子の生産性向上に向けて播種前研修会を開催しました

令和6年4月19日
栗原農業改良普及センター

令和６年４月５日に管内の種子大豆生産組織およびＪＡいしのまき担当者を参集し、種子大豆の播種前研修会を開催しました。

この研修会は、令和６年度新規普及プロジェクト課題「省力化技術の活用による優良大豆種子の生産性向上」の一環として開催したもので、令和６年産種子大豆に向けた栽培のポイントや手選別の実態調査の結果などを紹介しました。また、意見交換も行われ、今年の作付けに向けた取組や現状の課題、栽培技術に関する疑問など様々な話題におよび、各組織の種子大豆生産に向け意識の共有が行われました。

近年、管内の種子大豆生産の規模は縮小しており、安定した種子の供給に課題が生じています。普及センターは種子大豆生産の省力化、生産性向上により、大豆種子の安定生産を支援していきます。

○麦類現地検討会が開催されました

令和6年4月24日
石巻農業改良普及センター

令和６年４月４日、８日、16 日にＪＡいしのまき主催の麦類現地検討会が３つの地域で開催されました。

４日、８日はそれぞれ河北地区と矢本地区で追肥について、16 日は桃生地区で赤かび防除について検討を行いました。今年も気温が高く、麦の生育は平年より早く推移しているため、適期を逃さぬように追肥や防除を行うことが大変重要となります。参加者は、麦の生育を確かめ、高品質な麦の生産に向けて今後の栽培管理を確認していました。

健康機能性への関心や国内産志向の高まりから麦類の需要は増加しており、管内の生産面積も拡大しています。普及センターはこれからも高品質麦の生産を支援していきます。

○農地整備事業を契機とした地域営農体制の検討が進んでいます

令和6年4月30日
大崎農業改良普及センター

色麻町清水地区は、農地整備事業を契機に担い手への農地集積や高収益作物の導入を行うことにしており、清水集落営農組合を中心に地域営農体制の検討を進めています。

令和６年４月 17 日に、圃場整備後の転作大豆や高収益作物の生産体制を検討するため、第１回リーダー会議が開催され、清水地区農業者 11 人と町、土地改良区、普及センターが出席しました。リーダー会議は地域のベテラン、若手、兼業、女性など農業者の属

性ごとに作った検討チームの代表者による会議で、集落全体の意見を取りまとめるものです。
普及センターでは、各チームの検討や意見集約がスムーズに行われるように、検討項目や検討のポイント、体制の例示などの支援を行いました。各チームのリーダーの皆さんは、疑問点を質問するなど熱心に説明を聞いており、それぞれのチームに持ち帰り検討を行う意欲満々でした。
農作業の一段落する５月下旬に第２回リーダー会議を開催し、各チームで検討した意見を集約する予定です。

②新たな担い手の確保・育成

○令和6年度気仙沼地区4Hクラブ連絡協議会通常総会が開催されました

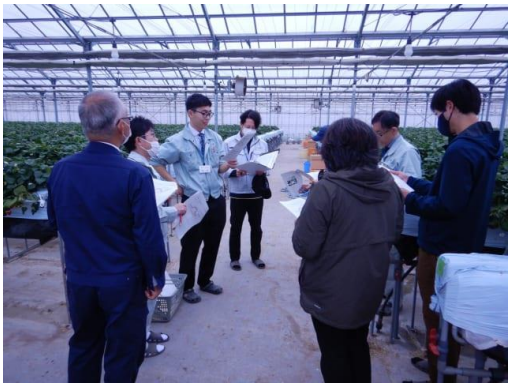
令和6年4月19日
気仙沼農業改良普及センター

令和６年３月 21 日に、令和６年度気仙沼地区４Ｈクラブ連絡協議会通常総会が開催されました。総会では令和５年度の活動内容を振り返るとともに、令和６年度の活動計画が協議されました。令和５年度は、宮城県農村教育青年会議「プロジェクト発表」での最優秀賞受賞、販売会や農大生との交流会の開催など、充実した１年となりました。令和６年度も引き続きクラブを盛り上げるための様々な取組について有意義な話し合いが行われました。
普及センターでは、今後も４Ｈクラブの技術研鑽や交流活動の開催等を支援し、地域農村青少年の育成に取り組んでいきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○環境制御技術を活用したいちご増収研修会を開催しました

令和6年4月22日
気仙沼農業改良普及センター



令和６年４月９日、ＪＡ新みやぎ階上いちご部会長三浦拓也氏のほ場で、気仙沼農業改良普及センター主催の「環境制御技術を活用したいちごの増収研修会」を開催し、生産者、各関係機関が参加しました。
気仙沼産いちごのさらなる増収に向け、普及指導員から環境制御を活用したいちご栽培管理のポイントについて説明するとともに、講師として三浦氏より、環境制御技術を活用した栽培管理事例について紹介してもらいました。
三浦氏からは冬期の天窓設定や温度管理についてアドバイスがあり、参加した生産者からは「改めて環境制御について学ぶことができて勉強になった。」との感想がありました。
当普及センターでは、引き続き、いちご栽培における環境制御機器の導入と同技術を活用した栽培管理の改善指導を行い、いちごの多収、高品質化による経営発展を後押ししていきます

○黒川地域で水稲乾田直播栽培の播種作業が始まりました！

令和6年4月23日
仙台農業改良普及センター

今年度仙台農業改良普及センターでは、黒川地域で水稲乾田直播栽培に取り組む法人を対象に、水稲栽培の省力化と乾田直播栽培技術の定着について重点的に支援していくプロジェクト課題を実施します。
大郷町のみどりあーと山崎株式会社は今年から乾田直播栽培に取り組んでおり、４月５日に初めての播種作業がスガノ農機株式会社、ＪＡ新みやぎあさひな統括営農センター、普及センターの指導と立ち合いの下行われました。
３月以降の断続的な降雨の影響でほ場準備が進まない地域も多い中、ほ場が乾いた合間を縫って行われた播種と鎮圧作業は、約１ha のほ場を３時間で終えることができました。
普及センターでは、今後も水稲乾田直播栽培の技術定着を支援してまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○「仙台せり」が、農林水産省の定める地理的表示（GI）保護制度に登録されました

令和6年4月10日
亘理農業改良普及センター

令和６年３月２７日に農林水産省の地理的表示（ＧＩ）保護制度に、宮城県名取市及び仙台市太白区で生産される「仙台せり」が登録されました。宮城県内の生産者団体の ＧＩ 登録は、４例目となります。

ＧＩ登録を申請した「仙台せり振興協議会」は令和元年に設立され、会員は 82 人、せり栽培面積は約 20ha です。

「仙台せり」の栽培は、江戸時代に名取川の伏流水が生んだ湿地帯に自生するせりを改良し始まったのが起源とされています。シャキシャキとした歯切れや爽やかな香りが特徴で、近年は、せりの根まで食べる「せり鍋」ブームにより需要が伸びています。

仙台せり振興協議会では、４月６日開催された「なとり春まつり」において、「仙台せり」がＧＩ登録されたことを一般消費者にＰＲしました。

（補足）「地理的表示（ＧＩ：Geographical Indication）保護制度」は、 その地域ならではの要因・環境の中で長年育まれてきた品質や社会的 評価等を有する農林水産物・食品等の産品の名称（地理的表示）を、 地域の知的財産として保護する国（農林水産省）の制度です。

○栗原市金成津久毛地区で加工用ばれいしょの栽培が始まりました

令和6年4月18日
栗原農業改良普及センター

栗原市金成津久毛地区では、ほ場整備事業が進められており、高収益作物導入が事業の要件となっていることから、令和元年から未整備のほ場において、加工業務用ばれいしょが試作されてきました。

本年度は、暗きょ等排水条件を整備したほ場での試験栽培が開始され、４月８日に種芋の植付けが始まりました。また、今年からＲＴＫシステムを用いた作業に取り組んでおり、作業の効率化や精度の向上が期待されます。

今回植付けられたばれいしょは、５月上旬に芽を出し、７月末から８月初旬にかけて収穫期を迎えます。

普及センターでは、今後も加工用ばれいしょの栽培技術向上に向けて支援していきます。

○母の日に向けたポットカーネーションの現地検討会が行われました

令和6年4月22日
大河原農業改良普及センター

柴田町を中心とした鉢花生産者は、平成 7 年に柴田鉢花研究会を設立して、生産技術の向上、年間を通しての出荷販売に取り組んでおり、主力品目のポットカーネーションは、市場や量販店への出荷の他、ゆうパックで全国に発送されるなど、東北有数の産地となっています。

母の日の需要期を前に、４月 15 日には生産者や資材業者、関係機関等 12 人が参加し、現地検討会が開催されました。各会員のほ場で蕾の大きさや色づき状況を確認し、今後の管理や出荷について意見交換を行いました。

今作は気温の変化が大きく温度管理等に苦労しましたが、品種に合わせた栽培管理を行い、良い品質の仕上りとなっています。会員の生産したポットカーネーションは４月中旬から県内外の消費地に出荷されます。

○スナックえんどう部会通常総会及び現地検討会が開催されました

令和6年4月22日
栗原農業改良普及センター

令和６年４月 16 日（火）、ＪＡ新みやぎ瀬峰支店でＪＡ新みやぎ栗っこスナックえんどう部会第 8 回通常総会が開催され、同部会員 12 名と、有限会社兵藤種苗商事及び普及センターの担当者が出席しました。

総会後には、瀬峰の生産者ほ場で現地検討会が開催され、有限会社兵藤種苗商事の担当者より、これからの栽培管理について説明がありました。普及センターからは、主要病害虫の特徴と対策について説明しました。また、防除に使用できる薬剤の例示や、薬剤の抵抗性発達を防ぐため、ＲＡＣコードを参考にしたローテーション散布を呼びかけました。

参加者間では、支柱の立て方や誘引の方法、ほ場周辺の雑草からの害虫の侵入防止等、活発な意見交換が行われており、栽培管理への知識が深まったようでした。

普及センターでは、今後も栽培技術の向上を支援していきます。

○村田町でそらまめの栽培講習会を開催しました！

令和6年4月22日
大河原農業改良普及センター

令和６年４月１７日、ＪＡみやぎ仙南主催のそらまめの現地検討会が村田町で行われました。そらまめの生産者 10 人が参加し、普及センターが講師となって生産現場の見学や意見交換を行いました。

現地検討会は２部構成で行われ、前半はＪＡみやぎ仙南の会議室で、普及センターが作成した「そらまめ通信」をもとに、今年のそらまめの生育状況や病害虫防除や除草など、これからの時期に必要になる作業について説明しました。後半はそらまめ部会の生産者のほ場に移動し、生育状況の確認を行いながら土寄せの方法などの意見交換を行いました。

村田町の地域特産品として質の良いそらまめを安定生産できるよう、普及センターではこれからも情報提供や栽培指導を通して支援していきます。

○亘理･山元果樹産地協議会通常総会が開催されました

令和6年4月23日
亘理農業改良普及センター

令和６年４月 16 日（火）にＪＡみやぎ亘理本店で「亘理・山元果産地協議会」の令和６年度通常総会が開催されました。

当協議会は、亘理町・山元町内の生産者組織と両町、当普及センター、農地中間管理機構、ＪＡの７機関で構成され、産地の維持・発展のため、果樹の優良品目や品種への改植、園地整備など国の支援事業の受け皿となる組織で、令和３年 12 月に設立されました。過去２年間の実績として、２経営体が果樹経営支援対策事業及び果樹未収益期間支援事業を活用していちじくやりんごの新・改植を行っています。本年度も新たに２経営体が事業申請予定です。

普及センターでは、関係機関と連携して、事業導入に向けた支援を行っていきます。

○JA みやぎ登米なす部会の現地検討会が開催されました

令和6年4月25日
登米農業改良普及センター

令和６年４月 18 日、ＪＡみやぎ登米なす部会の現地検討会が開催され、生産者のほか、種苗会社や関係機関を含め 15 人が参加しました。

検討会では、部会で試験的に導入している新品種のほ場と従来品種のほ場を視察し、生育や品質について比較しながら検討を行いました。新品種は従来品種と比較して、栽培管理が異なるものの、単為結果性で受粉作業が無くとも結実する性質で着果処理作業が不要なことや樹勢が穏やかで整枝作業の負担が小さい特性があるため、生産者からは、省力化を優先する場合には導入する価値は高いとの感想が寄せられました。

普及センターでは、土壌診断による肥培管理指導など、新品種の品質向上に向けた支援を行っていきます。

○今年の加工用ばれいしょの栽培が始まりました

令和6年4月25日
登米農業改良普及センター

登米地域では，令和３年に加工用ばれいしょを栽培する生産者で「登米ぽてと組合」が設立され，組織的な取り組みが行われています。今年の加工用ばれいしょ作付け予定面積は約 17ha となっており，４月上旬より播種が進められています。また，圃場整備後を見据え，高収益作物の候補として加工用ばれいしょの試験栽培を行う地域の動きも出てきています。

今回植付けられたばれいしょは、５月上旬に芽を出し、７月末から８月初旬にかけて収穫期を迎えます。

普及センターでは、加工用ばれいしょの生産者を対象に、今後の加工用ばれいしょ振興に向け、関係機関と連携し、生産者が中心となって取り組む中・長期計画策定と生産体制構築への活動を支援してまいります。

○河北ミニトマト部会現地検討会が開催されました！

令和6年4月26日
石巻農業改良普及センター

令和６年４月 16 日に石巻市河北地区においてＪＡいしのまき主催のミニトマト部会河北北上支部の現地検討会が開催されました。５人の生産者が参加し、各生産者のほ場を巡回、検討を行いました。生産者ごとに育苗中や定植後と、生育ステージは異なるものの適切な管理が行われ、順調に生育していました。

普及センターからは、これからの気温の上昇に伴って発生する病害虫の防除を中心に、栽培管理の注意点について情報提供しました。普及センターでは今後も巡回などを行いながら、栽培管理の支援を行います。

○JA 新みやぎ階上いちご部会による「いちごまつり」が開催されました！

令和6年4月 30 日
気仙沼農業改良普及センター

令和６年４月 21 日、ＪＡ新みやぎ気仙沼農物産直売所「菜果好」で、気仙沼産いちごのＰＲのため、新みやぎ階上いちご部会による「いちごまつり」が開催されました。このイベントはいちご収穫の最盛期に合わせて毎年開催しており、同部会の生産者が栽培した「とちおとめ」「かおり野」計 500 パックを部会員が店先に立ち販売したほか、同部会のいちごを使用したロールケーキなどが販売されました。

老若男女幅広い年齢層の買い物客で賑わい、品種による食味の違いや、どのぐらい保存できるかなどのアドバイスを部会員に直接聞いて次々といちごを買い求めていました。

同部会の三浦部会長は「今年もいちごまつりを開催できて良かった。皆さんにいちごを食べていただけて嬉しい。」と話されていました。

気仙沼農業改良普及センターでは、同部会員の栽培技術向上による収量向上等に向けて引き続き支援していきます。

○利府梨の花粉準備が始まりました！
令和6年4月 30 日
仙台農業改良普及センター

梨は、自家受粉できない品種がほとんどで、甘く形のよい梨を生産するために、人工授粉はかかせません。多くの梨産地では花粉用品種を育て、生産者が準備していきます。今年も４月 12 日からＪＡ仙台東部営農センターで「開葯所」が開設されました。

この開葯所では、ＪＡ職員が生産者から受け取った生花の重さを図り、専用の機械を使って、花の中の葯を取り出します。これをトレーに薄く広げて、一定の温度をかけて葯を開かせます。出来上がった粗花粉は、各生産者へ引き渡され、さらに各自で精製したり、希釈用の資材で薄めて使います。

すでに利府町では「あきづき」が満開期を迎えており、生産者は出来上がった花粉で受粉作業を行っています。

品質の良い梨が提供できるよう、これからも仙台農業改良普及センターでは梨生産支援を行ってまいります。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○小麦赤かび病防除打合会議が開催されました
令和6年4月22日
登米農業改良普及センター

令和６年４月 18 日に豊里地区の令和６年産小麦赤かび病防除打合会議が開催され、生産者、防除メーカー、ＪＡが出席しました。

普及センターからは麦の生育状況と赤かび病防除のポイントについて説明しました。今年は４月に入り平年よりも気温が高く推移し生育が進んでいることから、防除の時期について検討を行いました。また、赤かび病対策として適期収穫や乾燥調製も重要であり、それらについても生産者と情報交換を行いました。

普及センターでは、今後も登米管内の麦類の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○令和6年産大豆の生産に向けて、栽培講習会が開催されました
令和6年4月24 日
美里農業改良普及センター

美里農業改良普及センター管内では約 1,800ha（令和５年産大豆作付実績。ＪＡ新みやぎ調べ）で大豆が作付けされ、品質・単収共に高いレベルを保っていますが、昨年産大豆は開花時期の高温・乾燥などの影響により、例年より品質が大きく低下しました。

そのような中、令和６年産大豆の高品質安定生産を目指し、４月 15 日に涌谷町で、４月 22 日に大崎市田尻地域で大豆栽培講習会が開催されました。

講習会では、普及センターから令和５年産の振り返りと、令和６年産大豆の栽培に向けたポイントについて、スライドを交えて説明しました。特にほ場の乾燥や高温が大豆に及ぼす影響に触れ、雑草防除や播種様式などの新技術についても情報提供を行いました。説明の最後には、農作業安全と熱中症対策について説明し、「皆さん一人一人が大切な担い手なので、健康に留意して良質な大豆生産に励んでほしい」と呼びかけました。

普及センターでは、今後もＪＡ等関係機関と一体となって現地検討会や生育調査等を通じて大豆の収量や品質向上に向けた活動を継続していきます。

２．持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○かきのジョイント栽培実証ほを設置しました
令和6年4月 24 日
大河原農業改良普及センター

県南の丸森町は、干柿の産地として知られています。しかし近年は、高齢化や担い手不足により、栽培面積や出荷量は減少傾向にあります。

かきは高木性で樹高は３ｍを超えることから、高齢者にとっては栽培管理の負担が大きく、危険を伴う作業が多いのが現状です。また、従来の樹形では未収益期間が長く成園化まで 10 年以上の年月がかかり、新規栽培者の参入や既存生産者の規模拡大の妨げとなっています。

そこで、丸森町農業創造センターが主体となり、町内のかき生産者に福岡県農林総合試験場で早期成園化及び管理作業の省力化を目的として開発された「カキのジョイントＶ字トレリス栽培」の実証について取組者を募集したところ「まるもりころ柿クラブ(３名)」が実証に取り組むことになりました。

４月 18 日に宮城県農業・園芸総合研究所果樹チームの指導によりかきの接ぎ木を行いました。全員、ジョイント栽培の接ぎ木は初めてのため、手順や接ぎ木のポイントなどの説明を受けた後に接ぎ木を行いましたが、実際に行うと見た目よりかなり難しいといった声が聞かれました。

「まるもりころ柿クラブ」では、今回の実証を契機に町内の取組者が増えることを期待しており、例年、年度末に開催している加工用カキ研修会で生育経過等の報告をしたいと意気込んでいます。

普及センターでは、県内でも初めての取組であるため、今後も引き続き栽培支援に取り組んでいきたいと思います。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○JA新みやぎあさひなほうれんそう部会大郷支部研修会が開催されました
令和6年4月23日
仙台農業改良普及センター

令和６年４月９日にＪＡ新みやぎあさひな大郷支店において、ほうれんそう部会大郷支部の研修会が開催され、部会員 10 名が参加しました。

研修会では、普及センターが講師となり、「緑肥作物を活用した連作障害対策」をテーマに、昨年度に大郷町のほうれんそう生産者のハウスにおいて実証した成果を中心に講義しました。

従来から管内のほうれんそう生産土壌は、ＥＣが高くカリが低い傾向があり、長期連作に伴う生産量の減少が課題となっており、塩類集積の解消と有機物の補給を同時に行える「緑肥」に注目しました。今回、実証したハウスでは、ソルゴーを栽培しすき込むことにより、ＥＣが低下しカリが増加するなど、土壌環境の改善が図られ、ほうれんそうの生育の揃いも向上し、取り組んだ生産者の方にも手応えを感じていただきました。

研修終了後は、部会で緑肥種子の購入費用の助成を検討してはとの前向きな意見も出ており、今後、緑肥による土壌改良の取組が拡がることが期待されます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

＜大河原＞
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

＜亘　理＞
〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

＜仙　台＞
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

＜大　崎＞
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

＜美　里＞
〒987-0005
美里町北浦字笹舘5
TEL:0229-32-3115

＜栗　原＞
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

＜登　米＞
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

＜石　巻＞
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

＜気仙沼＞
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068

＊各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場　NEWS LETTER　No.207
発行日:2024 年 5 月 16 日
発　行:宮城県農政部農業振興課
編　集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837　FAX:022-211-2839
E-mail ： gbfs@pref.miyagi.lg.jp